



**連携中学2年生クラブ体験入学**  
～ 能勢高校のクラブ活動を高校生と一緒に体験 ～

10月17日(金) 東中学校、西中学校の2年生全員参加によるクラブ体験入学を実施しました。これは、7月の授業体験入学に続くもので、今回は全員が2つのクラブを選択して、能勢高校生と一緒にクラブ活動を体験しました。

体育館での開始式は能勢高生徒会の司会進行で進められ、クラブ代表として野球部キャプテン今西怜生君が歓迎の言葉を述べ、能勢高校のクラブの特徴やその良さを説明しました。続いて、生徒会から各クラブ代表者を紹介しました。このあと、各部の部員の誘導で活動場所に移動し、1時間ずつ2つのクラブを体験しました。どのクラブも中学校とは活動内容や練習方法が異なり、中学生にとって能勢高校のクラブ活動を知るとともに、新たな発見となる貴重な体験となりました。



クラブ代表者挨拶



硬式野球部



サッカー部



硬式テニス部



バスケットボール部



空手道部



ダンス部

**部活動** <体育系> 硬式野球、サッカー、硬式テニス、卓球、バドミントン、空手道、バスケットボール、ラグビー、  
<文化系> 書道、家庭科、茶道、漫画研究、自然科学、華道、美術、軽音楽、ダンス、農業クラブ(農業科活動)、ユネスコクラブ(ユネスコスクール活動)



バドミントン部



卓球部



軽音楽部



書道部



家庭科部



華道部



漫画研究部



美術部



農業クラブ

**お知らせ**

能勢高校創立60周年記念式典を開催します。  
事前申し込みの必要はありません。どうぞお越しください。  
2014. 11. 29 (土) 淨るリシアター  
受付 12:30 式典 13:00~13:50 記念行事 14:00~15:30  
記念行事：クラブ発表 軽音楽部・ダンス部・空手道部  
記念講演：陸前高田市長 戸羽 太氏  
「陸前高田市の復興状況と課題、そして希望ある未来へ」

## 第22回大阪府産業教育フェアに参加しました！

10月25日(土)・26日(日)の2日間にわたって、弁天町オーク200で開催された第22回大阪府産業教育フェアに参加しました。この「産フェア」は農業、工業、商業などの大阪府下の実業系高等学校が一堂に集まり、日頃の教育活動の成果を紹介するイベントです。ロボット相撲、ファッションショー、マッサージ体験やフラワーアレンジメント等、非常に盛りだくさんの内容です。また、進学合同説明会も同時に開かれました。本校は、『能勢高校の生産物』をイメージした展示及び蜂蜜・栗・黒米の販売を行い、農業クラブの2年生 金原朋世さん、北村茜さん、綱道康君、塚本侑希さん、中村勇人君、松村裕太君が担当しました。また、開会式には生徒会長 2年生大成こころさんが旗手として参加、閉会式では生徒会 黒田優衣さん、上田美咲さんが司会進行を行い、矢田愛世さん、日浅翔君、松村裕太君がその補助をつとめました。また、今年もPTAの方にも会場案内などご協力いただきました。



展示作品



農産物の販売



閉会式の司会

## 小中高PTA研修会を実施しました！

10月25日(土)本校農場にて、PTA研修会を行いました。参加者は小中PTA会員8名、子ども3名、本校PTA会員18名、子ども1名、学校長ほか講師として本校教員3名でした。当日は町内各地域で行事が重なったこともあり、昨年より参加者が若干少なくなりました。

今回の研修内容は、ブドウミックスジャム作りと陶芸制作体験でした。本校農場で収穫したブドウを使って作ったミックスジャムを、パンに添えて試食しました。新鮮なできたてのジャムに皆さん笑顔満面でした。陶芸はタタラを用いた型成形で、1人2~3枚のお皿を作りました。乾燥後、窯で焼き上げますが、作品の出でき栄えはどうなることでしょうか。後日のお楽しみです。

作業後の交流会は、小中高のPTA会員の皆さんで交流の輪を広げました。



ブドウミックスジャム作り



陶芸制作

## 東北震災ボランティアに参加しました！

10月24日(金)~26日(日) 能勢町ライオンズクラブ主催「東日本大震災復興支援プロジェクト 能勢米百俵 支援事業」に、本校生徒15名と中学生22名がボランティアとして参加し、岩手県大槌町を訪問しました。

能勢町から片道約1100km、バスで約16時間かけて到着した大槌町では、震災発生から3年半が過ぎたとはいえ何も無い更地が広がるばかりで、それは言葉を失うほどの光景でした。被災地の様子を初めて見た生徒は、被害の大きさとまだまだ復興していない現状を目の当たりにして、複雑な心境でした。

到着後、5つのグループに分かれて、仮設住宅415戸一軒一軒に能勢米を届けました。初めはどのような言葉をかけていいか戸惑う生徒もいましたが、訪問するごとに入居者の皆さんに喜んでいただき、次第に緊張も和らいでいきました。

宿泊先の施設では、津波から寸前で免れた常念寺の住職さんと大槌町教育委員会の方に、3月11日当日の地震・津波の様子と、復興の歩みについてご講演いただきました。震災直後混乱する中で、お寺で互いに気持ちで支え合って生きていく方々、姿被災したにも関わらず自らすすんで食事の配膳やトイレ掃除を行う中高生もたくさんいたことなどお話いただきました。家族の安否を心配して家に戻ったり、荷物を取りに家に戻ったりして逃げ遅れた方がいた教訓を踏まえ、今後起こりうる災害について事前に家族で話し合うことの大切さについても語っていただきました。

最終日は、津波に襲われながらもたった一本残った陸前高田市の復興のシンボルである「奇跡の一本松」を見学しました。壊滅状態になった陸前高田の町は今、崩れ落ちたユースホステルや道の駅がわずかな姿を残す中を、山から平地部に大量の土を運び出すための巨大ベルトコンベアが縦横に走っています。

被災地では復興をめざして新しい街の建設が少しずつすすんでいますが、被災地の方々は現在も非日常的な生活を強いられています。ボランティアに参加して、実際に被災地の様子を目で見てたくさんの方々とふれあえたことは、生徒たちにとってとても貴重な経験になりました。

**生徒の感想** 「『お米を届けにきました』の一言で涙する方がいて、少しでも意味のあることができたので参加して本当によかった。」「被災地のために何もできないと思っていたけど、自分にもできることがある改めて感じた。」「あれだけの被害を受けたのに、みなさん生き生きとしていて、今を必死で生きている。決してあきらめない気持ちを教わった。自分も小さな事でよくよしていられないと思った。このボランティアに参加して、自分の気持ちが変わった。」



能勢米百俵の運搬



大槌町の風景



仮設住宅 集会場(現地の方々と)



留学生2名も参加「奇跡の一本松」



参加者全員で記念撮影